

(19) Japan Patent Office (JP)  
(12) Unexamined Japanese Utility Model Application KOKAI Publication (U)  
(11) Utility Model Publication  
H8-373

(51) Int.Cl.6  
G08B 5/36  
A61F 9/00

(43) Published on February 20, 1996

---

(21) Japanese Utility Model Application No. H5-7684

(22) Filing Date January 18, 1993

(71) Applicant Jin MURAKAMI

3347-2, Oaza Imura, Usuki-shi, Oita

(72) Inventor Jin MURAKAMI

3347-2, Oaza Imura, Usuki-shi, Oita

(54) Title of the Invention: INSTALLATION OF WARNING SIGNAL LIGHT  
BLINKING AT REGULAR INTERVALS FOR REDUCING EYESTRAIN CAUSED  
BY STARING AT A DISPLAY OF A WORD PROCESSOR AND THE LIKE

(57) Abstract

[Object of the Invention] The present invention is directed to reduce extreme eyestrain and diminution of vision and also to prevent mental and physical disorders resulting from eyestrain by placing illuminants, each of which blink at regular intervals, around a display so as to have a user to blink consciously.

[Constitution] Warning signal lights, each of which blinks at appropriate regular intervals, are placed around a display. An on/off switch and a device for controlling blinking intervals and luminous intensity are also placed around the display.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平8-373

(43) 公開日 平成8年(1996)2月20日

(51) Int.Cl. <sup>8</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 8 B 5/36	B			
A 6 1 F 9/00	5 8 0			

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 実願平5-7684

(22) 出願日 平成5年(1993)1月18日

(71) 出願人 591202719

村上 迅

大分県白杵市大字井村3347-2番地

(72) 考案者 村上 迅

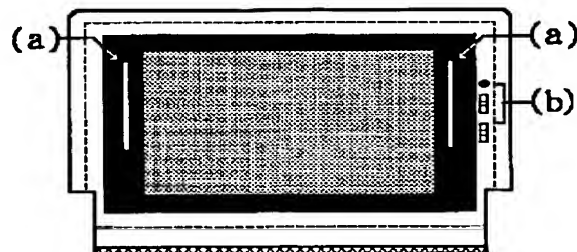
大分県白杵市大字井村3347の2番地

(54) 【考案の名称】 ワープロ等の表示画面凝視に因る眼の疲労を軽減するための、 間歇的に点滅する警告用シグナル発光灯の設置。

(57) 【要約】

【目 的】 この考案は、表示画面の周辺に、間歇的に点滅する発光灯を設置し意識的な瞬きを促し、眼の極度の疲労や視力減退を軽減し、同時に眼の疲労に誘引される心身の障害を予防しようとするものである。

【構 成】 液晶表示画面の周辺に、適切な時間間隔をおいて間歇的に点滅する警告シグナル灯を設置する。ON、OFFのスイッチ、点滅の時間的間隔の調節、光度調節装置を併せ設ける。



1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 (イ) 液晶表示画面又はブラウン管の周辺に、間歇的に点滅する発光灯を設置する。(点滅発光灯の形は、棒状、矩形、丸形、眼形…等)

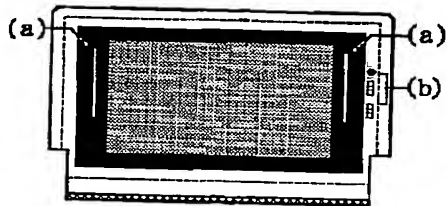
(ロ) 点滅発光灯は、小さな液晶板か、又は光度を調節できる発光体。

(ハ) ON、OFF スイッチと、点滅の間歇時間調節の機能とを併設。

【図面の簡単な説明】

\*

【図 1】



2

## \* 【図 1】 ワープロ表示画面の例

(a) 点滅発光シグナル灯。(棒形、間歇発光灯の例)

(b) 調節器。(この設置位置は表示盤以外の適切な場所でも好い)

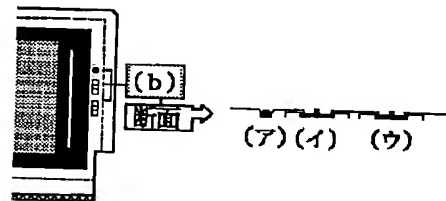
## 【図 2】 調節器

(ア) ON、OFF スイッチ押しボタン。

(イ) 光度調節のスライドつまみ。

(ウ) 点滅間隔調節のスライドつまみ。

【図 2】



## 【考案の詳細な説明】

【0001】

## 【産業上の利用分野】

液晶表示画面、またはブラウン管等を凝視することに因る眼球疲労、視力低下の軽減と、それに誘引される心身症の予防。

【0002】

## 【従来の技術】

ワープロ等の表示画面は、長時間凝視すると、眼を疲労させる。眼の疲労は、神経の疲労、ひいては肩こり、頭痛、その他の神経症の一因となる。液晶画面又はブラウン管を凝視し続けることにより、自律的な神経の働きがブロックされ、自然の瞬き回数が極めて減少するためである。

【0003】

## 【考案が解決しようとする課題点】

本案は、間歇的に点滅する発光灯を、液晶表示画面などの周辺に設置し、その点滅により注意を促し、自分で意識的に瞬き回数を増やし、眼球疲労、視力低下の軽減と、ひいては心身症の予防に役立てようとするものである。

【0004】

## 【課題を解決するための手段】

(イ) 液晶表示盤等の周辺に、間歇的に点滅する発光灯を設置する。

液晶板、変光度用発光体…等。(間隔時間例-20, 60秒、2分)

(ロ) 間歇点滅発光灯には、次のものを併置する。

(1) ON. OFFスイッチ。

(2) 間歇時間、調節機能とそのつまみ。

(3) 光度調節機能とそのつまみ。(調節の必要な発光体の場合)

【0005】

## 【考案の効果】

(イ) 点滅する発光が、一種の警告シグナルとなり、注意を促され、自身で意識的に瞬きに努め、眼の疲労を軽減することができる。

(ロ) 個人々々に合うように光度、点滅の間隔の調節ができる。

(4)

実開平8-373

(ハ) 要、不要に応じてON OFFにできる。